

今日からあなたも

## プレゼンター

### 〜ビプリオバトル〜

ビプリオバトルとは、参加者が好きな本を持ち寄って、それぞれの作品が一番読みたくなかったかを投票して決めるゲームである。京都大学から広まったもので、生徒主催でビーンズでも行われるようになった。

ここでのビプリオバトルでは本に限らず、漫画やライトノベル、映画などもその対象となっており、今回で三度目の開催となった。

参加者たちは「作品を紹介するとき一人芝居で紹介したので黒歴史になりそう・・・」「皆の好きな作品の話が聞けて楽しい。全員見る視点が違う」などと様々な感想を伝えてくれた。

今回の優勝者が紹介した本は、太宰治の「グッド・バイ」。

戦後、妻がいるのにもかかわらず闇営業で儲けながら愛人を十人近く養っていた主人公は、そんな生活に嫌気がさし、後腐れなく愛人との縁を切るために偽の妻を作って別れる、という計画を思いつき実行に移す・・・という内容の作品だ。

実はこの作品、なんと執筆中に著者太宰治が入水自殺をしてしまい、そのまま絶筆になってしまった「未完の遺作」なのだ。

また、執筆依頼をした末常卓郎という人物は「主人公は全ての愛人と別れることに成功するも、最後は自分が妻に振られてしまう」という結末を考察していた。

二位はどの国にも属さない世界最強のスパイ機関と、そのメンバー達の活躍と成長を描いたスパイ映画「Kings man-Golden circle」。

三位は弁護士助手と「しゃべる猫」の繰り広げる推理合戦を描く小説「猫には推理がよく似合う」。同率で、たくましく生きる様々な動物の親子の魅力が詰まった写真集「動物の親子」の二作品が入賞した。

また、その日はビーンズの先生の知り合いである外国人のマイケルさんが、ゲストとして招かれた。そこで彼は自身の好きなアーティストのCDの紹介と、そのアルバムに入っている曲の中の一つを弾き語りで披露してくれ、場を沸かせた。

ビーンズでビプリオバトルを開催した部長に何故開催したのかを聞くと「楽しそうだし、自分が本を好きだから」と答えてくれた。

第四回の開催日はまだ未定だが、近いうちに行われるであろう、白熱したバトルに乞うご期待！

(文…いためし)

